

地域学校協働連携NEWS

陶芸教室 in 天翔窯 ~江川小学校~

6月27日(月)江川小学校の陶芸教室を訪問しました。下郷町の窯元「天翔窯」さんに直接伺い、体験活動を行いました。ろくろの体験はみんな初めてで、見るのとするのとは大違いのようでした。



【手びねりでお皿やマグカップづくり】



【蹴(かじか)の箸置きが大人気】



【轆轤(ろくろ)体験:まるで陶芸家のように。先生も挑戦】

「いつも以上に集中して活動していますね。」制作に励む5年生の様子を見守りながら、担任の湯田薫先生は、陶芸教室の意義について次のように話してくれました。

「4年生で会津本郷焼などの伝統工芸について学習していますが、本やタブレットで見ると、実際に触れてみるのとでは、学びの質が大きく変わります。今日、子供たちが集中しているのは、魅力を感じている証拠です。『かじか』を知らない子供が多いことがわかったので、いつか『かじか』について調べてみようと思います。」

体験によって深まった図画工作科の校外学習は、新たな探究活動の起点になりそうです。

天翔窯の佐野眞二さんは、学校の体験活動のほかにも、公民館の講座や学年行事等でも体験希望者を受け入れ、指導を続けています。

この日も、「まず作りたいものを思い浮かべてから」「脇を締めて」「ゆっくりでいいからね」と、子供たちの様子に合わせて声をかけていました。はじめは固唾をのんで見ていただけの子供たちも「広げて!」「上に伸ばして!」とアドバイスできるようになっていきました。

「やってみないとわからないことや、現場でしか味わえないものがあると思います。子供たち1人ひとりに体験させることを大切にしています。」と佐野さん。

江川小5年生の作品は、乾燥や釉掛けなどの作業を経て、10日間かけて窯の中で焼かれ、秋ごろ、子供たちのもつに届けられる予定です。



【完成が楽しみ!】